

## 支部便り

## オンライン開催した令和2年度軽金属学会関東支部総会・ 第7回若手研究者ポスター発表会の概要報告

A report of online general meeting and 7th Young Researchers' Poster Presentation,  
FY2020, by Kanto branch, Japan Institute of Light Metals

渡邊 満洋

Mitsuhiro WATANABE

令和2年度軽金属学会関東支部総会・第7回若手研究者ポスター発表会を開催したので、報告する。関東支部ではこれまで、支部総会を西暦偶数年に隔年で開催し、併せて講師を招待して講演会を実施してきた。さらに当日には、若手研究者ポスター発表会を行い、今後の社会を担う若手軽金属研究者(35歳未満)の育成ならびに交流を図る場を提供してきた。しかしながら本年度は、昨年末から新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を奮い、日本においても4月に政府から緊急事態宣言が発出され、5月末の緊急事態宣言解除後においても引き続き3密(密閉、密集、密接)を回避した上での活動が求められる状態であった。また軽金属学会においても対策本部より、8月時点においても10名以上が集合する行事等の延期または中止を検討するよう要請がある中で、関東支部における活動を工夫して行う必要があった。

これまで継続して8月に行ってきた関東支部の行事である、支部総会・講演会・若手研究者ポスター発表会の歩みを止めることなく実施するため、4月から企画を開始した。本原稿執筆の現在(9月)であれば、ZoomやGoogle Meet、Microsoft Teamsなどの各種web会議システムが普及し、その利用が日常化しているが、企画を開始した4月当初ではまだweb会議システムに不慣れな状態であり、参加者の皆様に不都合があってはならないため、web会議システムを用いた同時双方向型の発表会開催は断念せざるを得なかった。しかしながら、若手研究者ポスター発表会での若手研究者の発表は軽金属希望の星賞の選考に影響を与える可能性があるため、日程は9月上旬までに固定し、各参加者の情報端末やソフトウェア、ネットワーク環境によって不公平が生じない最低限のオンライン形式の開催を目指した。上記のように、本年度の支部総会・講演会・若手研究者ポスター発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年の対面実施形式とは異なる方法でそれぞれの行事を実施したので、下記に詳細を報告する。

関東支部総会はこれまで、関東支部会員の皆様に参集いただき、活動内容や決算等について報告してきたが、参集いただくための公共交通機関における新型コロナウイルス感染回避、ならびに会場におけるソーシャルディスタンスを保った3密回避への対策が困難なため、対面での実施は避ける必要があると判断した。また、web会議システムを用いた同時双

方向型の開催も検討したが、支部会員それぞれの異なるネットワーク環境に対応する公平な方法を見出すことができず、断念した。そこで、メールを用いて、平成30・31(令和元)年度の活動内容および令和2年度の活動計画や予算についての資料を配信し、支部会員に報告することによって、支部総会の開催に代えた。さらに、関東支部長、幹事および関東支部運営委員会委員2名により、令和2年8月28日(金)に日本大学理工学部駿河台キャンパスタワー・スコラにて小規模の対面支部総会を開催した。また例年、支部総会に併せて開催している講演会は、支部総会と同様の理由によりやむなく中止とした。

第7回若手研究者ポスター発表会も支部総会と同様に、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、これまで実施してきた対面形式による発表は行わず、発表会用のwebサイトを作成し(9月14日(月)に閉鎖)、そのwebサイトを介してオンライン開催した。発表会webサイトは各種googleアプリケーションを利用し、各発表者から提出された概要とポスターの公開および質問者から各ポスターへの質問、その質問に対する発表者からの回答を入力できるように作成し、対面によるポスター発表の良さの一つである、発表者と参加者のコミュニケーションをオンライン上でできる限り再現するよう工夫した。

図1に、今回作成した第7回若手研究者ポスター発表会webサイトのトップページを示す。Webページは、発表者および参加者(関東支部運営委員のみ)が感覚的に構成を理解することができるよう、「操作手順」ページ、「概要・ポスター提出」ページ、「質問(質問者から発表者へ)」ページ、「回答(発表者から質問者へ)」ページのみとした。また、外国人留学生の発表者への配慮として、日本語と共に英語での説明も付した。図2に「概要・ポスター提出」ページを示す。発表者にはまず、図3に示したポスターフォーマットをパワーポイント形式で配布し、「目的」、「方法」、「結果および考察」、「今後の進め方」について上書き作成し、「概要・ポスター提出」ページに作成した概要および発表ポスターをアップロードするよう指示した。アップロードファイルのファイル名を「ポスター番号\_概要/ポスター\_所属\_氏名\_バージョン番号」とするよう指定することによって、アップロードファイルの管理が容易になるよう工夫した。またファイルアップロード



図1 ポスター発表会webサイトトップページ

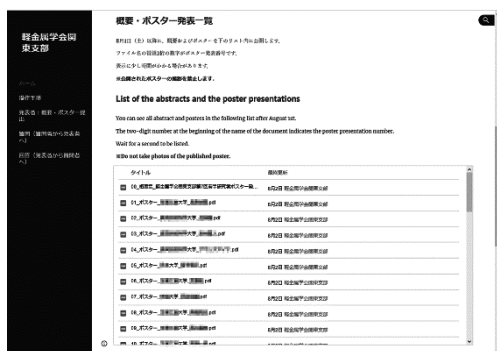


図4 概要・ポスターの公開（個人情報にはモザイクをかけている）

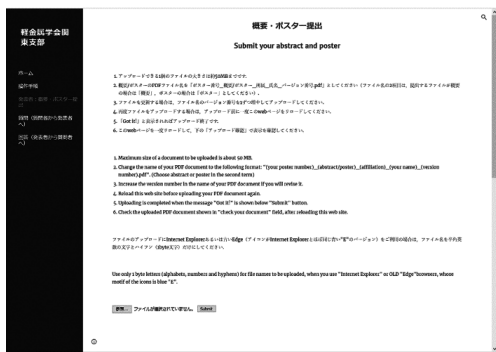


図2 概要・ポスターの提出ページ

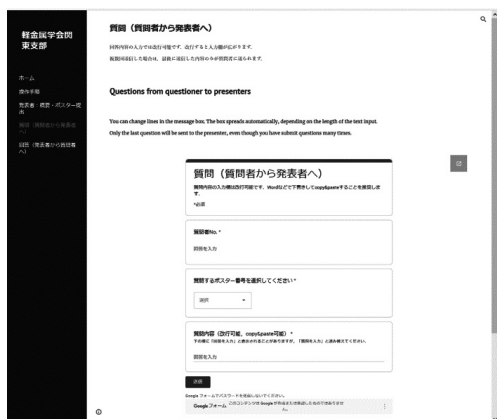


図5 発表に対する質問の入力ページ

No. 25	紙式-横型	Al-O <sub>2</sub> -Al 系合金の組織と成形性及びぼす添加元素の影響
所属: ○○○大学 工学部 ▲▲▲科 □□□研究室		氏名: 軽金属 太郎
【目的】		
【方法(実験方法)】		
【結果および考察】		
【今後の進め方】		

図3 配布したポスターのフォーマット

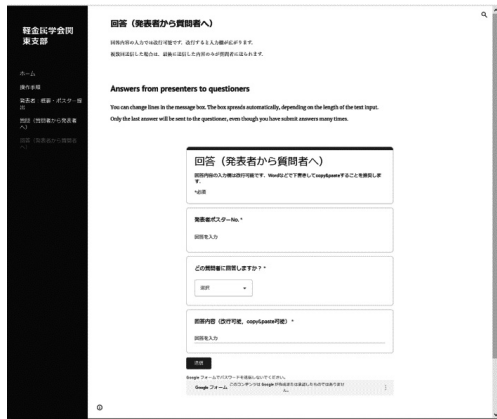


図6 質問に対する回答の入力ページ

後は、発表者自身でファイルを確認できるように設定し、ファイルの確認後に修正が必要と判断した場合は、バージョン番号を変更すれば提出期限までは複数回のアップロードを可能にし、ファイルアップロードの失敗等への対策を事前に講じた。提出された最終版の概要は、概要集の形式に取りまとめ、webサイトトップページに掲載した(図4)。またポスターは、対面におけるポスター発表を意識し、概要集のようにまとめることなく、個別のファイルを並べて掲載した。なお、研究情報の不正取得を防止するため、発表ポスターのダウンロード・印刷は不可に設定し(概要集は可)、撮影を禁じることを周知した。このようにweb掲載した概要集およびポスターに対して、関東支部運営委員会メンバーで構成した質問者によって質問を「質問(質問者から発表者へ)」ページ

(図5)より入力した。質問者にはあらかじめ質問者番号を振り分け、その番号を入力した上で質問を送信するよう周知し、質問者になりすました質問が送信されないよう工夫した。発表者が、質問者からの質問内容に対して「回答(発表者から質問者へ)」ページ(図6)より回答を送信することによって、ポスター発表を行ったこととして取り扱うこととした。令和2年6月5日(金)に軽金属学会ホームページに会告を公開し、発表申込期限は6月30日(火)とした。本年度のポスター発表会には、オンライン開催になったにも関わらず、募集人数と同数の40名の若手研究者(企業研究者1名(株式会社神戸製鋼所)、大学教員1名(山梨大学)、大学研究員1名(横浜国立大学)、大学院生37名(茨城大学9名、宇都宮大学

3名、群馬大学4名、工学院大学2名、芝浦工業大学5名、千葉大学2名、千葉工業大学2名、東京工業大学4名、長岡技術科学大学3名、日本大学3名))から発表申込みがあった。これに、29名の関東支部運営委員会メンバーが加わり、総勢69名の参加者でオンライン発表会を執り行った。支部会員の皆様にもwebサイトURLを伝え、自由に発表の閲覧・質問などを行っていただくことも検討したが、多くの方からの質問の取りまとめや回答の送信などの最適な方法を見出すことができず、発表者と支部運営委員会の閉鎖的な発表会となったことは大変心苦しい判断であった。発表者からの概要およびポスターの提出期限は7月31日(金)とし、提出された概要およびポスターは8月2日(日)に発表会webサイトに掲載した。概要・ポスターの掲載と同時に質問者には質問送信を依頼し、質問の送信期限は8月25日(火)とした。質問者から送信された質問内容を8月26日(水)に各発表者にメール送信し、質問への回答期限は9月4日(金)とした。発表者から送信された質問への回答は9月7日(月)に各質問者へメール送信し、発表会は終了とした。なお今回はオンライン開催のため各発表への審査の公平性を担保することが困難なため表彰は行わず、発表者全員に参加賞として図書カードを贈呈した。これまでの実施方法とは異なり、初のオンライン開催であったため、開催当初はネットワークトラブルなどを危惧していたが、大きな混乱もなく、無事閉会までたどり着くことができた。

オンライン開催した関東支部総会・若手研究者ポスター発表会では、支部会員の皆様との懇親を深めることや、発表会

における臨場感を若手研究者に提供することができなかった。社会ではソーシャルディスタンス確保等の新しい生活様式への対応が求められているが、対面による活動の重要性も改めて感じている。新型コロナウイルス感染拡大が落ち着き、一刻も早く正常な活動を再開できるようになることを切に願っている。しかしながら現状のような環境がいつまで続くのか、また、これまでの環境に戻ったとしてもいつ再来するのかを予測することは困難なため、今回のオンライン開催の反省および今後の展開を整理しておく必要があると考えられる。そこで、本ポスター発表会に参加いただいた発表者および質問者の皆様にはアンケートへの回答を依頼している最中である。さらに、本ポスター発表会では発表者および質問者の双方の表情を確認しながら対話をする事ができなかったため、10月1日(木)にweb会議システムを用いた同時双方向型のオンライン座談会を企画し、発表者の皆様からご意見を伺う予定である。このようなアンケート結果や座談会のご意見は、今後新型コロナウイルス感染拡大のような不測の事態に陥った場合でも、より良い活動を実施するための財産として活かしていきたいと思う。

最後に、本支部総会・ポスター発表会は、オンライン開催にも関わらず参加いただいた支部会員の皆様ならびに運営委員の皆様にご協力いただき、開催することができた。特に、宇都宮大学の山本篤史郎先生には、発表会webサイトの作成をご指導いただくなど、多大なるご支援をいただいた。この場を借りて厚く御礼申し上げます。